

令和3年度 東京都立文京高等学校 学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導

- ① 学カスタンダードに基づく教科の到達目標を明確にし、教科内及び教科間の連携を深め、授業内容や方法の工夫・改善、授業時数の確保や家庭学習の促進、教材・定期考査問題の共通化、ICT機器の活用やアクティブラーニングによる主体的学習の推進、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上に向けた取組など、学力向上を目指す学習指導の充実を図った。国内の新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の対策を図り、「学びを止めない」を合言葉に、オンライン授業を併用した授業を行った。
- ② 土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置など、生徒の理解度や目的に応じた指導を行い、学力向上に向けた学習指導の充実を図った。
- ③ 数値目標である、自主学習室平均利用人数（1日当たり）は45.0人（昨年度41.1人）と、全学年での利用が拡大し、授業時間以外での学習の習慣が定着してきた。大学入学共通テスト得点率60%以上の人数は205人（昨年度248人）と、昨年度を下回ったが、難易度の変化に影響を受けたと考えられる。長期休業中の講習講座延べ日数は300日（昨年度193人）と、コロナの影響を受け長期休業期間が短縮された前年度を大きく上回る講座数を開講した。コロナ禍の中で自学自習の習慣が定着し、生徒の学力向上に結びついた。

イ 進路指導

- ① キャリア教育の全体計画に基づき、進路部と学年が連携し、将来設計に基づいた計画的・組織的な進路指導を行った。コロナ禍においてもオンラインを活用するなど実施方法を工夫し、例年行っている進路行事を進めることができた。前年度の進路実績の向上が良き前例となり、早い段階から進路意識を高めるホームルーム活動での指導などにより、キャリア教育の充実を図った。
- ② 教科主任会及び教科会の定期的な開催により、教科指導及び進学指導の実践力を高めるとともに、模試分析結果を基にした全教員参加の進路研修会を開催し、確実な学力の向上と目標大学合格に向けた進路指導の取組を、学校全体が一体となり組織的に行えるよう進めた。
- ③ 近年で最も高い合格実績を上げた前年度に続くよう高い目標に向け努力させた。合格実績としては、国公立大学29人（昨年度38人）、早慶上理39人（昨年度42人）と数値目標には届かなかったが、難関私立大学（GMARCH）は274人（昨年度213人）と前年度及び数値目標を大きく上回った。GMARCH以上の難関上位校への合格者数の卒業生徒数に対する割合は前年度83%と高い目標を実現したが、今年はそれを上回る96.6%となり、文京高校での学びが難関上位校合格に結びつくという、文京スタンダードが定着した。

ウ 生活指導

- ① 「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において、規範意識を高め、自分で判断し決定し実行する自己指導能力を高める指導を行った。遅刻防止指導や頭髮・服装等の身だしなみ指導を行うとともに、集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度の育成を図った。
- ② 体罰根絶、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むなど、人権尊重の教育を推進した。
- ③ コロナ禍においても、学年単位やオンラインを活用するなど実施方法を工夫し、例年行っているセーフティ教室などの生活指導行事を予定どおり進めることができた。未然防止

や予防的指導の観点で、問題行動防止や犯罪被害防止などの指導を充実させ、事故や事件は無かった。

エ 特別活動・部活動

- ① 今年もコロナの影響により、全学年が一堂に集まっていた学校行事はできなかったが、コロナ禍においても、生徒自治会や行事実行委員会等の活動を支援し、学年ごとの体育祭や文化祭、球技大会などを実施し、集団や社会の一員としての自覚と行動力、社会の発展に貢献しようとする自主的・実践的な態度を育成するよう努めた。
- ② 本校が目指す「文武両道」の精神のもと、部活動加入率 100%（昨年度 101%）を達成し、部活動の活性化や競技力の向上を図るとともに、成就感や自己肯定感を高める指導を行った。特別活動・部活動も重要な学びとして捉え、コロナ禍においても、感染防止の取組を徹底し、生徒の自主的・自発的な活動を支援した。
- ③ 数値目標として掲げた関東大会レベル以上出場部活動は 2 部（昨年度 5 部）と、目標値を達成することができなかったが、各部活動が高い目標の実現に向け工夫して練習に取り組んだ。

オ 健康・安全

- ① 東京都教育委員会のガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症防止対策を全校挙げて取り組んだ。結果として、校内での感染拡大はなかった。
- ② 教育相談委員会を年間 6 回（昨年度 3 回）開催し、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、長期休業明けのアンケートを実施するなど、学校不適応の未然防止や自殺予防に向けた取組の充実を図った。
- ③ コロナの影響により、宿泊防災訓練などの従来の方法での防災教育は行えなかったが、避難経路確認や帰宅確認など方法を工夫した避難訓練を年間 4 回実施し、災害に対する自助の力と共助の精神を育むための防災教育を進めた。

カ 募集・広報活動

- ① 4 年連続で減少していた応募倍率の回復に向け、募集対策 P T を新たに組織し、応募状況や学校選択の分析、学校説明会等の工夫、中学校教員向け説明会の開催、塾対象説明会の開催など、募集・広報活動を見直し充実させ、4 年前の倍率に近づくことができた。
- ② 昨年度に続きコロナ禍でも十分な情報が得られるよう、ホームページを活用して資料掲載や動画配信などを行うとともに、ホームページの更新を迅速かつ定期的に行い、年間 180 回（昨年度 155 回）の更新を行い、外部に積極的に情報発信をした。
- ③ 入学者選抜の応募倍率は、中進対倍率が 1.65 倍（昨年度 1.22 倍）、推薦に基づく選抜では 3.86 倍（昨年度 2.87 倍）、学力検査に基づく選抜では 1.84 倍（昨年度 1.39 倍）と、前年度を大きく上回り、応募倍率回復の目標を達成することができた。

キ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とした学校経営を行い、管理運営規程に基づく学校運営を徹底し、組織的な業務遂行と学校運営を進め、諸課題の解決に向け組織的に取り組んだ。
- ② 経営企画室との連絡・調整・連携を強化し、迅速かつ効率的な業務を遂行し、事業の充実と推進に取り組んだ。
- ③ プール改修及び全室エアコン工事という大規模工事を、教育活動との調整を定期的に行いながら円滑に進めた。

(2) 重点目標への取組と自己評価

- ① 【学習指導】土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置など、生徒の理解度や目的に応じた教育課程を編成し、進学校として進学に向けた学力向上を図る指導を充実させた。授業においては、授業時数を確保し、

新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理解度や目的に応じた適切な内容・負荷・スピードによる指導を行うとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT機器の活用やアクティブラーニングによる授業改善に取り組み、生徒の学びの質を高める指導を進めた。朝や放課後等の授業時間以外での講習や夏期・冬期講習などの受験指導も充実させるとともに、自主学習室平均利用人数（1日当たり）が45.0人（昨年度41.1人）と増加するなど、授業時間以外での主体的な学習の習慣が定着し、進学に向けた学力の向上を図る学習指導を充実させることができた。教科主任会及び教科会を定期的に開催し、授業、家庭学習、補習・講習などの内容や方法を調整し、学校全体で組織的に学力向上に向けた学習指導の推進を図った。新型コロナウイルス感染症対応も踏まえ、オンラインの積極的活用・定着に取り組み、学習内容の確実な定着と学力向上を目指す効果的な学習指導を計画的に進めた。

- ②【進路指導】3年間を見通したキャリア教育を推進し、組織的・計画的に将来設計に基づく進路指導を進め、伝統ある進学校として進学指導を一層充実させ、国公立大学や難関私立大学への現役合格者数の増加など、進学実績の向上を目指し取り組んだ。昨年度から新設した年間3回開催する進路研修会を活用するなど、模試分析等による生徒の学力診断結果を教科内及び教科間で検証し、進路目標実現に向けた指導の改善・充実に結び付けた。結果として、国公立大学29人（昨年度38人）、早慶上理39人（昨年度42人）と数値目標には届かなかったが、難関私立大学（GMARCH）は274人（昨年度213人）と前年度及び数値目標を大きく上回った。GMARCH以上の難関上位校への合格者数の卒業生徒数に対する割合は前年度83%と高い目標を実現したが、今年はそれを大きく上回る96.6%となり、文京高校での学びが難関上位校合格に結びつくという、文京スタンダードを定着させることができた。
- ③【生活指導】「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高め、文京生であることへの自覚と誇りをもたせ、自律的な態度や行動を育成する指導を行った。数値目標として掲げた1日当たりのクラスの平均遅刻人数は、始業前の朝学習が定着したこともあり、0.5人（昨年度0.5人）と2年続けて少ない数である。コロナ禍においても、学年単位やオンラインを活用するなど実施方法を工夫し、例年行っているセーフティ教室などの生活指導行事を予定どおり進め、生徒の行動や心理に対する想定範囲を広げ、事故や問題行動等の未然防止や予防的指導の観点で指導を充実させ、事故や問題行動等はなかった。
- ④【特別活動・部活動】「至誠一貫」の校訓のもと、学習面だけでなく、特別活動や部活動もひたすらに実践する生徒を育成するため取り組んだ。特別活動・部活動も重要な学びとして捉え、コロナ禍においても学びを止めない方針のもと、感染防止の取組を徹底し、生徒の自主的・自発的な活動を支援した。今年度も部活動加入率は100%であり、「文武両道」の精神のもと、「部活動に係る活動方針」に基づき、運動部・文化部共に、事故やけがの防止に努め、効率的・効果的な部活動を実践し、学校生活の充実と、学校への帰属意識を高めた。数値目標として掲げた、関東大会レベル以上出場部活動は2部（昨年度5部）と、目標値を達成することができなかったが、各部活動が高い目標の実現に向け工夫して練習に取り組んだ。
- ⑤【健康・安全】東京都教育委員会のガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症防止対策を全校挙げて取り組んだ。結果として、校内での感染拡大はなかった。感染しない・させない取組が、感染に対する自助・共助の精神を育んだ。防災、健康、安全、個人情報の保護など、学校の危機管理や安全管理について全教職員で取り組み、事故の無い安全・安心で健康な学校づくりを行うことができた。教育相談委員会を年間6回（昨年度3回）開催し、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、長期休業明けのア

ンケートを実施するなど、学校不適応の未然防止や自殺予防に向けた取組の充実を図った。引き続き、学校事故ゼロを継続していくよう取り組んでいく。

- ⑥【募集・広報活動】4年連続で減少していた応募倍率の回復に向け、募集対策PTを新たに組織し、応募状況や学校選択の分析、学校説明会等の工夫、中学校教員向け説明会の開催、塾対象説明会の開催など、募集・広報活動を見直し充実させ、4年前の倍率に近づくことができた。感染症対策を徹底した学校説明会、学校見学会、授業公開、部活動体験入部などを実施するとともに、外部での学校説明会にも積極的に参加し、募集・広報活動を充実させた。入学者選抜の応募倍率は、中進対倍率が1.65倍（昨年度1.22倍）、推薦に基づく選抜では3.86倍（昨年度2.87倍）、学力検査に基づく選抜では1.84倍（昨年度1.39倍）と、前年度を大きく上回り、応募倍率回復の目標を達成することができた。昨年度に続きコロナ禍でも十分な情報が得られるよう、ホームページを活用して資料掲載や動画配信などを行うとともに、ホームページの更新を迅速かつ定期的に行い、年間180回（昨年度155回）の更新を行い、外部に積極的に情報発信をした。コロナの影響により、前年度から延期となっていた9月開催予定の創立80周年記念式典は中止とし、記念誌の配布のみとなった。
- ⑦【学校経営・組織体制】組織的な学校運営を進め、諸課題の解決を図った。学校の特色化を更に進めるよう、これまでの教育の内容や成果を検証し、更なる教育活動の充実・発展に向けた取組を進めることができた。

(3)「今年度の数値目標」の実績

[]内は令和2年度実績

- ① 長期休業中の講習講座延べ日数200日以上
300日 [193日]
- ② 自主学習室平均利用人数（1日当たり）45人以上
45.0人 [41.1人]
- ③ 大学入学共通テスト得点率60%以上の人数265人以上
205人 [248人]
- ④ 国公立大学合格者数40人以上
29人 [38人]
- ⑤ 難関私立大学（早慶上理、GMARCH）合格者数260人以上
313人 [255人]
- ⑥ 現役大学進学率90%以上
89.8% [88.3%]
- ⑦ 遅刻者の全生徒に対する割合（1日当たり）1%以内
1.2% [1.2%]
- ⑧ 1年生部活動加入率100%以上
100% [101%]
- ⑨ 関東大会レベル以上出場部活動5部以上
2部 [5部]
- ⑩ 図書館の年間貸し出し冊数4,500冊以上
3,457冊 [3,985冊]
- ⑪ ホームページ年間更新回数160回以上
180回 [155回]
- ⑫ 学校説明会の来場者数（1回あたり）1,000人以上
750人 [750人]

- ⑬ 入学者選抜応募倍率（学力検査） 2. 0倍以上
1. 84倍 [1.39倍]

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業内容や授業方法を工夫し、進学に向けた学力の向上を図る学習指導を一層充実させる。教科主任会及び教科会を定期的で開催し、教科内での指導内容や指導方法の共有化を図るとともに、教科間の連携を深め組織的な指導体制を構築し、意図的・計画的に学習指導を進めていく。自主学习室の利用拡大や進学対策講習の充実を図るなど、授業時間以外での生徒の主体的な学習を推進する。

(2) 進路指導

進学校としての進学指導を一層充実させ、国公立大学や難関私立大学への現役合格者数の更なる増加など、進学実績の向上を目指す。国公立及び難関私大の合格者数の卒業生に対する割合が2年続けて増加し96.6%となった。次年度は100%を目標とし、文京高校での学びが難関上位校合格に結びつくという、文京スタンダードを一層定着させる。年間3回の進路研修会を年間計画の中に位置付け、模試分析等による生徒の学力診断結果を教科内及び教科間で検証し、進路目標実現に向けた指導の改善・充実に結び付けていく。放課後や長期休業中等の授業時間以外での指導を更に充実させ、進学に向けた指導を充実させる。

(3) 生活指導

引き続き、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高める。文京生であることへの自覚と誇りをもたせ、自律的な態度を育成していく。近年、高校生や社会において発生している事故や事件等の情報を的確にとらえ、生徒の行動や心理に対する想定範囲を広げ、事故や問題行動等の未然防止の視点で、予防的指導を更に進めていく。

(4) 特別活動・部活動

「至誠一貫」の校訓のもと、学習面だけでなく、特別活動や部活動もひたすらに実践する生徒を育成する。勉強と部活動を両立させるためにも、部活動に関する活動方針を遵守し、効率的・効果的な部活動を実践する。生徒が主体的に取り組み、事故無く、成就感や自己肯定感を得られるような指導を進めていく。ひたすらに実践した結果が大会等の成績に結びつくよう、高い目標を維持させる。

(5) 健康・安全

新型コロナウイルス感染症対策への対応を進め、生徒の命や健康を守り、安全・安心を最優先とする教育活動を行う。学校不適応や中途退学の未然防止及び自殺予防に対する指導や対策を進め、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制を充実させ、生徒個々の状況把握と一人一人に応じたきめ細かい指導を進めていく。防災教育や安全指導を徹底し、災害に対する指導や事故の未然防止を図る。

(6) 募集・広報活動

昨年度の取組を継承・充実させ、入学者選抜の応募倍率の更なる向上を目標とする。コロナ禍で実現できていない、授業見学、体験授業、出前授業などを実現させ、質の高い教科指導の実態やひたすらに実践する生徒の姿に触れることができる機会を設ける。ホームページのシステム変更に伴い、内容を大きく更新し充実させる。

(7) 学校経営・組織体制

東京都教育委員会からの指定や支援を受け、教育活動の充実・発展に取り組むとともに、法令・規則等に基づく組織的な学校運営を更に進め、引き続き諸課題の解決を図っていく。